

第80回 あまみエフエム放送番組審議会

1. 開催日時 令和2年8月19日(水) 19:30～
2. 場所 奄美市名瀬金久町4番3号2階 あまみエフエム 会議室
3. 出席予定委員 5名(敬称略)
師玉 当太、早瀬 穂奈実、原永 智晴、福本 新平、恵 枝美
(欠席委員3名 小原 常誉、肥後 敦子)

あまみエフエム 7名 麓 憲吾、福田 絵美、渡 陽子、石岡 真夏、
田畑 誠、東 蘭、保 紡義

4. 議題

(1) 審議

議題1

番組内容の審議 「ナキャワキャ島自慢」について
議題2: その他、質問など。

(2) 次回の審議会について

※音源CDを後日お送りいたします。

(3) 次回の審議会日程について

改めてご連絡いたします。

事務局_渡

それでは第80回あまみエフエム番組審議委員会を開催させていただきます。
今回からご参加の委員の方もいらっしゃいますので、改めてスタッフの紹介をさせていただきます。

事務局_麓

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
日頃自分たちで試行錯誤しながら番組を作っておりますが、みなさんからの忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。
内部では色々と議論を投げかける役目をしております代表の麓と申します。

事務局_渡 あまみエフエム放送制作部の渡と申します。

事務局_石岡 あまみエフエムでパーソナリティをしています石岡と申します。

事務局_田畑 あまみエフエムでオペレーターをしています田畑と申します。

事務局_東 あまみエフエムでパーソナリティーをしています東と申します。

事務局_保 あまみエフエムでオペレーターをしています保と申します。

事務局_渡 本日、運営事業部から福田絵美というものも参加させていただいています。

事務局_福田

あまみエフエムで営業のような業務を行なっている運営事業部の福田絵美と申します。宜しくお願いします。

事務局_渡

今回、みなさまに『ナキャワキャ島自慢 勝浦集落編』をお聞きいただきましたが、まずこの『ナキャワキャ島自慢』の番組概要について事務局の石岡よりご説明させていただきます。

事務局_石岡

まず放送は本放送が朝の生ワイド番組スカンマーワイド内、再放送がお昼の生ワイド番組ヒマバンミショシーナ内と1日に2回お届けしており、集落にお住いの方々、主に年配の先輩方にお話をさせていただき『ナキャワキャ島自慢』と島の子供たちがお話をしてくれる『島の宝奄美っ子』と隔週で放送を行なっています。

ナキャワキャ島自慢の番組はその名の通りワキャ（奄美の方言で『私たち』）のシマ（集落）の紹介・自慢をお話ししていただくというもので、その集落の区長さんにお話をさせていただきながら、その区長さんにその集落で生まれ育った70代～80代の方を紹介していただいて、その方に集落の自慢をしていただくという番組になります。

できるだけ全ての集落を回ってお話を聞いていきたいということで、名瀬に取材に行ったら次は大和村、住用町という風に順に取材に伺っています。

事務局_渡

番組の概要説明をさせていただきましたが、ここからは委員長の師玉委員長にお願いしたいと思いません。

師玉委員長

よろしくお願ひ致します。早速ですが、議題1の「番組内容の審議『ナキャワキャ島自慢』について」ということで、今回欠席されている肥後委員より文書をいただいていますのでまず先にこちらを読み上げたいと思います。

「この度は急な欠席に対しましてご迷惑をおかけいたします。また、先日の花火大会の中継においてはご苦労様でした。（※事務局注＝コロナ禍で奮闘する医療従事者や、大会などが中止となっている島の子ども達にエールを送ろうと、地元の建設業に関わる青年団体（県建設業青年部会奄美市部）が主催した花火「サプライズ花火サンライズ奄美」を当局もお手伝いさせていただきました。）久しぶりに上を見上げたような気がします。関係各所の皆様に対して医療従事者の一人として感謝申し上げます。

さて、本日の審議対象番組『ナキャワキャ島自慢』についてです。

個人的にシマの高齢な方々から実直なお話が聞けることは歴史、文化を知る上でも貴重な番組だと思いました。文章の記録としては残っていないでしょうし、価値のあるお話を聞かせてもらっているように思います。

インタビュアーの方もお話を汲み取りながら広げていくのは大変なお仕事だろうと思ひながら聞かせていただきました。これからもシマジマの自慢を聞いていきたいです。」といただきました。

それでは、本日出席されております原永さんよりお願いいたします。

原永委員

はい。こちらの番組、あまみエフエム開局当時から続いている番組ということでこれまで取材を行った集落がどのくらいあるのか分からないとのことでしたが、

今回の内容である勝浦集落ですが、私は笠利の方に住んでおり、（勝浦集落のある）瀬戸内にはあまり行かなく、古仁屋への通り道というイメージだったんですが、具体的にどこだったかなと思ひ、改めて地図で場所を見ながら何度か聞き直しました。知っている場所、あまり知らなかった場所というのを番組を通じて興味をわかせてもらいよかったなと思ひています。

聞いていると、ご高齢の方が色々なことを知っている。自分の出身のシマの話もよく聞いていましたが、似たような話がまた違った形で言い伝えられているとか、いろんな文化を感じました。

この番組がいつ収録されたのかなと気になったのですが、たまたまあまみエフエムのホームページを見たときに勝浦集落の公民館の写真が載っていて、これどこかで見たことあるな～と思ひていたところ、ぐっさん（タレントの山口智充さん）が奄美に来た時に勝浦集落にもお邪魔して、公民館の看板をぐっさんが書いたという話を聞いていて、ぐっさんのお母さんの故郷であることなども知り、自分の中で

リンクしたところもあったのでより勝浦集落に興味を持ちました。

色々調べているうちに「奄美.asia」というホームページを見つけて、その中で奄美の文化が消えようとしていてなんとかしないといけない。というようなことを書いていて、この番組もその一環なのではないのかと。昔じいちゃんばあちゃんに聞いた話が今は微かに覚えてはいるけれども、こういった風に残るのはすごく大事なのではないかなと感じました。そういった意味でも、頑張って全集落を記録として残していってもらって、次世代への文化の継承としてホームページなどにも写真付きで残していつているのは良いのではないかと思います。

あと、先ほどのぐっさんの話も番組のどこかで紹介すると若い世代も興味を持つのではないかと思います。近くに行った時に（勝浦集落に）寄って行こう！看板見に行ってみよう！という風になるのかなと。昔の話と一緒に、今の島の人や観光客に向けた情報も入れると面白いのかなと思いました。

集落の商店の話などもあると、島の発展にもつながっていくのかなと思いました。

また、インタビューの中で勝浦集落のある瀬戸内がどのくらい大きい・小さいのかや、人口の情報なども自分の集落と比較したりして面白かったです。

師玉委員長

それでは続いて福本さんお願いします。

福本委員

今回、ナキャワキャ島自慢をお聞きして、正直な話私自身中学まで島で暮らして高校からは鹿児島県本土で18年ほど出て7年くらい前に島に帰って来たんですけども、実際島の文化にも興味がなくて「島にも居たくない」という形で出て行って、向こうで結婚をして子供達も連れて帰って来たときに、最初に教育委員会に所属して居たんですが、その時に文化とかそういったことを仕事柄扱うことがあって、やっていくと「あ、こういうことがあったな」とか「そういう話を聞いたことがあるよな」というのがあって。それが大和村だけで終わっていたんですけども、このナキャワキャ島自慢を内地から島に来た方と、20年くらい本土で暮らして島に帰って来た方と一緒に聞いたんですけども、やっぱり場所がわからないんですね。場所がわからないんですが、集落で似たようなところもあったり。一緒に聞いていた二人は先日瀬戸内に研修会で行く予定があったので「近くを通っていたかもね」など話しながら興味を引いていました。

島の文化は似たようなところもあるし、でも集落によって違ってくる場所もあるし。

大和村でPTAの会長もしているんですが、子ども達に文化を教える中で大和村だけの文化を教えることも大事だけど、各集落、島全体を見た方が「このシマ（集落）にはこんな文化があるんだな」というのが聞けるのはよかったなと思います。子ども達に教える前にまず自分たちが覚えなければならぬが、覚える機会もなかったもので、実際に集落に行かなくても前情報として集落のことを知れることで、実際に

集落に行った際に感じることはできるのではと思っています。

伝統文化の伝承や先人をたたえる意味でも貴重な番組だと思っています。

師玉委員長　それでは早瀬さんお願い致します。

早瀬委員

今回から参加させていただきます早瀬と申します。普段は大和村にある奄美野生生物保護センターという施設に事務所がありまして、そこで仕事をしています。私の前は千葉というものが参加させていただいてまして、千葉が7月で異動になったということで私が引き継ぎまして今回から参加させていただいています。よろしくお願い致します。

私は仕事では自然や生き物のことを主にしていまして、出身も東京で島に来て2年ということで、まだまだ島のこと何もわからないんですが、そういった視点から感想が言えたらなと思っています。

いつも車などでラジオを聴いているんですが、まず島の中にこういったラジオ局があって色々な面白い番組をやっているというのがすごいなと思い、またそれをみんなが聴いていて、あまみエフエムで流れたらみんな知っているというのが出来上がっているのが本当にいいことだなと思い楽しく聞かせていただいています。

今回の審議の番組についてですが、正直島口（方言）が多くてついていけないところもあったんですが、逆に言えばこれだけ島口が流れてずっと聴いていることは島に住んでいてもなかなか無いですし、内地から来た人だとどうせ伝わらないと思ってみなさん結構伝わるように話して下さるのでがつつり島口を聞く機会もないので、そういう意味でもこの番組があるのは面白いなと思っています。例えば観光客の人もラジオを街中などで聴いていてこれだけ島口が流れている番組があることはそれだけでも面白いし、「奄美の方言全然わかんないよ！」と島を知るきっかけになると思います。島の言葉を聞くということもあまみエフエムならではだし、そういった所を増やしてほしいなと思いました。

その中でも今回の勝浦集落のことを聴いていて面白いなと思ったのは、網野子トンネルができて今では網野子が玄関口になっているけれど、それができる前までは勝浦集落が玄関口だったんだよなど、今のトンネルがある状況しか知らないんですけども、「トンネル一本でそういった立ち位置なども変わるんだ」と、時代などの変化も勉強になりますし、面白いなと思いました。あとは、昔はどうだったんですか？という話が出てくると思うんですけども、その中で「お父さんお母さんはどんな仕事をしていたんですか？」とかそういう話が出た時に、やはり当たり前ですけれども仕事も今と昔とでは違って仕事ひとつを通してその時の生活であったり文化だったりそこから伝わるのが面白いなと思いました。行事なども今はないけれど昔行っていたものなどあったと思うんですが、（勤務している）奄美野生生物保護センターでも自然と文化のつながりなどもイベントで取り上げたりとか、国立公園の中でも文化と自然のつながりは重要視しているので色々聞く機会があるんですけども、“こういったものがある”というのは調べていくと出てくるんですけども、実際に島の人々の体験談だったりその人の言葉で聞くことはなかなか無いので、こういった番組で話が聞けるのは貴重ななと思いました。

それから、隔週放送ということでしたが、この番組は毎日1週間流しているんですか？

事務局_石岡

はい。隔週でお送りしており、1週間は毎日ひとつの集落をお届けしています。

早瀬委員

そうなんです。1週間ひとつの集落の話をじっくり聞けるというのはいいなと思いました。やはり一回きりだと情報が集約されてしまうと思うんですが、1週間分でじっくりその集落のことが知れることはいいことだと思います。今回の集落の話をきいて「他の集落はどんなだろう？」など他の集落のことも聴きたくなるすごくいい番組だと思います。

師玉委員長 それでは恵さんお願いします。

恵委員

私も今回が初めてとなります。恵と申します。普段はマチイロマガジンという情報誌を作っていて、昨年までは商店街で会長などもしておりました。今回、番組を聞かせていただきまして、まず出演していたのは長老だったんだ！という。そういった人を人選することも難しかったらうし、その場に行かれているという努力もすごくびっくりしました。聴きながら、私も勝浦集落どこかはわかっていたんですが、聴いているみなさんから集落の場所がどこにあるのか難しい時に、“空港からどのくらいでいけるところ”などの情報があってもいいのかなと思いました。この番組ではリポーターの方一人で聞いていると思いますが、もしタイミングがあえば青年団の方と一緒に聞くなど、聞く人がいてもいいのかなと。やっぱり伝統を受け継いでいってもらうためには、普段集落のおじいちゃんが話していても「はげ～うるさいや～」と思っているかもしれないので、静かに聞いてもらうことで何かヒントになったりだとか、シマ興しに繋がるんじゃないかなと思いました。私は大和村の今里集落出身なんですが、今里集落では昔はカツオ漁が盛んだったということなどをおじいちゃんおばあちゃんから聞いているので、そういった産業や文化の話なども聞けてよかったなと思いました。

リポーターの石岡さんの素直な質問も良くて、私たち世代もわからないこともあったりするのですごく分かりやすかったです。

師玉委員長

はい。それでは最後に住用の師玉です。

もうみなさんがおっしゃった通りでした。僕が住んでいる住用町の見里集落も勝浦集落とほぼ同じ人口で、お話しされている方の中で93歳の方がいて、その年齢の方が出てお話をされるとというのがすごいなと思いながら聞いていました。こういう昔の伝統・文化の話ができる人が自分の集落ではどのくらいいるんだろうか？と思った時に、逆に若い世代が働きかけて子ども達に教えて行かないといけないなと感じました。

どこの地区も似たような文化なんですけど、神様の祀り方などが違うということで、そういった集落があるんだと改めて興味が出ました。

瀬戸内町の訛りの中で石岡さんがおしゃべりをしていて、番組内で屋根の話をしている時に石岡さんが「A4サイズくらいね！」と言ったのがすごく耳に残って、標準語と島口の対比がすごく良かったです。僕は今役所で教育委員会にいるんですけども、こういった機会をもっと広めていけたらと改めて思いました。以上です。

それでは、議題の2に行きたいと思います。

質問などその他なにかありませんでしょうか？

事務局_麓

開局当時は、集落の魅力を引き出そうと思い番組を始めたんですが、最初のタイトルは「わきゃなきゃ島自慢」でした。

ですが、どう考えても「なきゃわきゃ」だろうと。「You&me」だろ！とご指摘いただき、その後「なきゃわきゃ島自慢」に名前を変えた経緯があります。

※島口で、ナキャ=あなた達。ワキャ=私達という意味

事務局_渡

先ほどお話の中での『番組のこれまでの総放送回数』についてですが、総放送回数についてはまた調べて行きますが、どの集落におじゃましたかはおおよそ分かります。

事務局_石岡

ほとんどの集落を回っているんですが、私の把握している範囲だと、2018年度からの情報であれば大和村はほとんど取材に行っています。

全ての集落を回れていないところは、名瀬・笠利町・宇検村・瀬戸内町・龍郷町となっているので、この箇所をどんどん取材に回って行こうというところです。

3回、4回と何度も行っている集落もあつたりしますが、その場合は話し手が変わっているという形になります。

事務局_渡

この番組自体は開局当時からある番組で、以前出ていただいた方がお亡くなりになっています。貴重な集落に伝わる八月唄や方言など集落によって違いがあると思います。集落でも八月唄がなくなってきている集落もあるかと思いますが、放送をきいた集落の人が「自分たちの集落でも八月唄しなきゃいけないね」と思ってくれたら嬉しいです。

また、例えば住用町の見里集落の八月唄を聞いた時に私の生まれた集落の宇検村の田検集落と歌詞が同じけれどもメロディーが違うなどがあり、集落の多様性だなと感じています。

恵委員 今回番組の最初に流れていた島唄は毎回歌ってもらいますか？

事務局_石岡

そうですね。毎回取材は区長さんをお願いをするんですが、だいたいお願いする区長さんや区長さんの先輩など行事に詳しい方は唄を歌える方が多いので、そういった方をお願いすると歌ってくださいます。

事務局_渡

なので、ゆくゆくはそういった集落ごとの八月唄をコンプリートするのが夢でもあります。

恵委員

(出身である)今里集落の郷友会があるんですが、だんだんと八月唄を歌える人が少なくなっているのので、そうやって残してくれるとありがたいですね。

原永委員長

私が住んでいるのは笠利町の赤木名というちくなんですけど、赤木名は、里・中金久・外金久と小さな3つの集落に分かれていてそれぞれの集落で八月踊りや種下ろしをやっていたんですが、歌を歌う後継者が少なくなってきたので、3つの集落が合同で隔週一回集まって保存会のようにして歌詞を書き起こしたりなど活動をしていく予定です。

私の親は率先して教えにも行っています。いろんな集落みんな残して行こうと必死になっているように感じますね。

事務局_渡

師玉さんの(出身)集落もすごいですよね。公民館に八月踊りの唄の歌詞が貼っていたり。

師玉委員長

そうですね。公民館に八月唄の歌詞が貼ってあったりします。
僕らも第2火曜日は毎月集まっています。住用町には14集落ありますが、
歌える人がいなくなってしまうと、見里・川内・市・西仲間の4つの集落でしか八月踊りは残っていませんね。役勝にもあるんですが、後継者がいなくて。

事務局_渡

師玉さんは小さい頃から踊りが好きだったんですよね？

師玉委員長

はいそうですね。小さい時から踊りが好きで、大人になった時には歌える人が高齢化になっていて。そこからなので30歳くらいですかね、歌を覚えようと思ったのは。僕の野望は、いつか見里集落の八月唄が住用町の八月唄になってくれたらなと思っています…！あとはそうなるのかなとも思っています。

原永委員

先ほど集落ごとに歌詞や歌い方が違うとお話がありましたが、
笠利の赤木名では3つの集落の歌の出だしをどこに合わせるかで話し合っています。歌詞が残っているけれどメロディーがなんとなくでしか残っていないので音源として残しているのはありがたいです。
何年前から行事をビデオで残しておく取り組みは少しずつ行なっています。

事務局_渡

私も田舎の生まれで、名瀬の奄美祭りというのを見たことなかったんですよ。大人になって初めて奄美祭りの八月踊りを初めて見た時に、これまで自分の出身集落の八月踊りしかしてこなかったのに、いろんな集落の踊りを見た時に本当に感動しました。
多様性といえますか、集落の個性をラジオでも伝えられたらと思っています。

事務局_石岡

はい。本当に色々な方がいらっしゃいますし、大きな行事は変わらないんですがそれぞれの集落でちょっとした違いがありますのでそれを伝えられるのは番組の良さだと感じています。

事務局_渡

いつかは加計呂麻島、請島、与路島にも行きたいですね。

事務局_麓 泊まりがけでね。

事務局_渡

先輩方も高齢化していますので、文化や風習をどんな風に残していけるのかはいつも悩みながらではあります。

師玉委員長

20代～50代よりも、学校教育の中で島のことを教えているので子供達の方が知っているというのがあって。八月唄にしても東城小中学校では体育祭の時に今年川内集落の八月踊りをしたら来年は見里集落の八月踊りを。というふうに交互に行なっています。

大人が月に一回集まってお酒を飲みながら唄を覚えようとする、4曲覚えるのに2年とか3年くらいかかってしまいます。けど子ども達は2ヶ月で4曲覚えてしまいます。これは学校がすごく努力をしていて、掃除時間の音楽とかを昔はとなりのトトロの曲を流していたりしたのを八月唄に変えたり。

地域よりも学校がそういった風に率先してしてくれているので、うまく協力できれば文化は残っていくのかなと思います。

原永委員

そうですね。私の母校も朝から八月唄が流れます。

もしかしたら教育委員会でそういった働きかけをしているのかなと。

いいことですね。

師玉委員長 これまでに番組の取材を打診して断られたところなどはありますか？

事務局_石岡 あります。

師玉委員長 どんな理由ですか？

事務局_石岡

私も悲しいと思うんですが、「話ができる人が集落にはもういないよ」と。

区長さんも50代、60代で、区長さんより上の世代もいないところもあります。忙しくて難しいという理由であれば時期をずらして取材に伺ったりしますが、話す人がいないと言われてしまうと、寂しいなと感じます。

事務局_麓 ちなみにどこですか？

事務局_石岡 大和村の志戸勘ですかね。

恵委員 志戸勘難しいかもね。

事務局_麓 人が少ないもんね。

事務局_渡

最終的には名瀬にいる志戸勘出身の郷友会に聞けたらと思っています。
志戸勘は立派なあしやげ、土俵もありますもんね。

原永委員

もし話し手が居なくても詳しい人を探して情報を集めたりしながら、
取材とは異なるかもれませんが諦めずに残していただきたいですね。

恵委員 ラジオを聴いている島外にいる島出身の方でもお話が聞けたらいいですね。

事務局_渡

そうですね。志戸勘出身の方いらっしゃいませんか、と呼びかけないといけないですね。

師玉委員長 その他質問などありますか？

原永委員

番組のお話の中で昔の遊びの話がありましたよね？
「わっぱ」などの遊びが出てきていましたが、どんな遊びなのか気になって。

事務局_石岡

話を聴きながら想像したものではあるのですが、

グランドゴルフのクラブのようなものを自分で作って、ボールのようなものを相手と打ち返し合う遊びです。ですが、ボールがどこに飛んでいくかわからないので、ガラス窓などが出始めると割れてしまう危険があるのでなくなっていったしまったそうです。

事務局_渡 昔は木の扉でしたもんね。

原永委員

この話をきっかけに私も昔の遊びを色々と思い出しました。

ビー玉だったり、メンコだったり。輪ゴムをいっぱい買ってきて、段差から落として上手く重なったらがっぽりもらえとかですね。

色々な遊びのルールが載った本など無かったのにしっかりとルールがありました。そういった遊びも残っていったらいいなと思います。

今はスマホなど画面でゲームをして外では遊ばない。遊びも文化の一つだと思うので残していきたいですね。

自分が中学くらいの時、「クール」というコマ遊びがありました。木を切ってコマを作るんですが、鞭のようなものを使って叩いて何時間も回し続けて競うんです。笠利町の子ども会のイベントではクールの大会も一時期ありましたよ。

小さい子ども達にそういった昔の遊びをしてもらえば、逆に新鮮じゃないかなと思います。

事務局_石岡

集落に行くと、みなさん色々な遊びも教えてくれます。

今思うと、取材の際に遊びについてももっと聴いていくのもいいなと思いました。

早瀬委員

集落によって聴きたいトピックを変えたりしていますか？それともだいたい質問内容は同じですか？

事務局_石岡

島の大きな行事や、島口、島唄はどの集落でも同じように聞くんですが

例えば今回の勝浦集落であれば、島唄の「節子のトミさん」のお話があったりとか、集落の方に聞くと集落ごとにシンボルがあるので、そのシンボルのお話をさせていただきますね。

恵委員 共同墓地の空気穴の話はとても印象的でした。

事務局_石岡

私達からすると、共同墓地があるんだな。という風にしか思わないんですが、集落の人からすれば作り始めから終わりまでであったり、空気穴をあける開けないなどの大騒動を聞くことができますね。

師玉委員長

他に何かありますか？

今回の議題に関しては音源を送っていただけるということ、日程も改めて連絡するということです。最後に事務局からなにかありますかでしょうか？

事務局_渡

はい。本日も貴重なご意見いただきましてありがとうございます。いただいたご意見を元により良い放送をおこなって参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

事務局_麓

最近、建設業協会のみなさんからのご相談があつて、8月1日に名瀬でサプライズ花火をあげることに對しての特別生番組をさせていただきまして、建設業の皆さんがたくさん協賛金を集めてくださって、当日の夕方6時に生放送で発表するという形態ではあつたんですが、事前に各所程よく漏れているというか。

屋仁川でも漏れていて、屋仁川のホステスさんになんで知っているのと聴いたら「消防から聴いた」と。封じようがないなと思ひながらですね。

でも、混雑、事故なく終えられてですね。いつも思うことですが、毎年あると通例の行事ですが、このコロナ渦の中ですからありがたいなと感じた次第です。また集落も当たり前存在しているんですけども、自分たちが取材をしていって深みの魅力を引き出して共有できたらなと思ひています。さっきもありましたけれど、隣の集落のことを知らなかつたりします。数年前に大和村の国民文化祭のお手伝いをさせていただいた時に体育館に全集落の八月踊りが来ていて、お互いに初めて見たという声が聞こえていて、そういうものなんだなと名瀬の街っ子からすると感じたので、ラジオという土俵に色々な方をあげて各集落の魅力を今後も発信できたらと思ひていますので、情報提供などよろしくお願ひ致します。

5 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日
次回審議会までに改善に努める

6 審議会機関の答申又は意見の外用を公表した場合における、
その公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送：令和元年10月3日(土)

② 書面の備置き：令和元年10月3日(土)から、当該事項を記載した書面（議事録）を当法人事務局へ備置き、聴衆者の閲覧希望に対応

③ インターネット：令和元年10月3日(土)より当法人インターネットのホームページに転載

7 その他の参考事項 なし